



国際親善総合病院

病院だより

NO. 245
Winter 2016.1

2016年 申年
年男・年女

病院のできごと

春 夏 秋 冬

第6回
キッズセミナー

特集

地域との連携を活かした
身近な緩和ケア病棟を目指して
～その人らしい生き方を支援するために～

新年のご挨拶



病院の理念
良質な医療の実施
親切な医療の実施
信頼される医療の実施

おくすり手帳はお持ちですか？

処方せんを持参して街の調剤薬局へ行くと必ずこう聞かれるのではないのでしょうか。おくすり手帳はいつ、どこで、どのような薬が処方されたか、他にも過去に起きた薬の副作用、アレルギー等を記録する手帳です。

おくすり手帳により複数の医療機関から処方されていても薬の飲み合わせや重複、また過去に起きた副作用やアレルギーの薬と同様の成分でないか等の確認が出来ますし、病院内でも受診の際や、入院される際に持参される薬の確認等に利用します。また旅行先や休日診療所等での受診時、災害時にも有用です。いつも服用される市販薬やサプリメント、薬を飲み始めてからの体調変化、医師、薬剤師に聞きたいこと等をご自身で手帳に記載していただいで構いませんので、健康管理のためにも上手にご活用ください。



迎春

新年のご挨拶



病院長 安藤 暢敏

新年明けましておめでとございます。

昨年後半には、「一億総活躍社会」という言葉が、マスコミ上に踊っていました。女性や元気な高齢者も十分活躍できる社会を目指すという、アベノミクス第2ステージを支

える目標の一つです。確かに日本は世界もつらやむ長寿国になり、元気なお年寄りが活躍できる場を設けるべきです。しかし介助を必要としない健康寿命は、男性71歳、女性74歳で、それぞれ平均寿命とは9歳、13歳の開きがあります。高齢者、とくに後期高齢者への医療、看護、介護の必要度は増えるばかりです。

このような人口構成の流れの中で、国際親善総合病院では昨年8月に4階建ての新館棟が完成しました。新館棟には緩和ケア病棟がオープンし、高齢者の二人に一人は罹患するがんの、診断に始まり緩和医療にいたるつなぎ目のないシームレスな、しかも地域で完結できるがん医療を

患者さんは、不安いっぱい来院されると思います。我々は、表面的なものではなく、形だけでもない患者さんに満足していただける「心のこもった医療サービス」を提供していきたいと思えます。

副院長

飯田 秀夫



本年もさまざまな地域の医療ニーズに即応し、地区の医療機関とも協力してきめ細かい医療サポートをとれるよう、より一層努力いたしますので皆様の御指導および御協力をよろしくお願いいたします。

副院長

清水 誠



今年も職員一丸となって安全で安心な医療・看護に努めてまいりたいと思えます。病院の再整備で療養環境（4床部屋や個室の増室等）が改善されますことは職員も楽しみにしております。また、患者さんからのご意見やご指導を真摯に受け止めながら本年もチーム親善で頑張りまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

看護部長

楠田 清美



昨年4月には救急部に救急専従医師が着任し、泉消防署の中田出張所には救急車が新たに1台追加配備されましたので、これまで以上に救急受け入れ態勢の強化を図っています。

地域住民の方々のご負担にお応えできるよう、地域の中核病院としてさらに進化を続けたいと存じます。本年もよろしくお願い申し上げます。

平成二十八年一月



管理部長

中川 秀夫



糖尿病・内分泌内科のご紹介

はじめまして、平成27年4月から赴任しました本間正史と申します。



現代は診療科の細分化が進み、「内科」の中で、当院においては「内分泌内科」という標榜でありましたが、糖尿病の方を診察する頻度が最も多い実情に合わせて最近「糖尿病・内分泌内科」と変更致しました。当院は総合病院であり、より合併症が進行した方やインスリン治療の方（糖尿病全体の1/3）が多い印象がありますが、健診で指摘された方も重要な診療の対象者と考えております。また、他の疾患で受診・入院し同時に糖尿病の管理が必要な場合も少なくなく、当科も診察させていただく事があります。外来のみならず、入院を要する高・低血糖症などについても応需しており、血糖管理のためのクリニカルパスを利用した1週間前後の入院についても近く稼働する予定です。

内分泌疾患では甲状腺疾患が最も代表的な疾患ですが、より専門施設へ紹介する場合があります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

糖尿病・内分泌内科
部長代理 本間 正史

地域との連携を活かした 身近な緩和ケア病棟を めざして

～その人らしい生き方を支援するために～

緩和ケア病棟担当医 村井 哲夫 / 緩和ケア病棟 課長 三堀 いずみ



緩和ケア病棟
スタッフ



4床部屋



個室

緩和ケア病棟 (4C病棟)の開棟

当院でがんの治療を受けた患者さんから「最期まで親善で診てもらいたい」「なぜ緩和ケア病棟がないの?」「あれば近くて安心なのに」という多数の声がありました。これらの声に後押しされ、当院の緩和ケア病棟が2015年9月7日に開棟いたしました。

緩和ケア病棟とは

主にがんの患者さんの痛みや不快な症状を緩和し、苦悩や希望に寄り添いながら、その人らしい生き方を支援する病棟です。手術や抗がん剤などの病気を治す治療は行いませんが、痛みや苦痛症状を和らげるための

入院を希望される方は

まずは主治医、または看護相談室にご相談ください。入院にはお申し込みから判定会議を経て、入院日をお知らせします。緩和ケア病棟を一度退院して、訪問診療や訪問看護を受けながら生活をされる患者さんも多数おられます。こうした方がもし再び具合が悪くなった

治療を積極的に行います。苦痛症状が緩和され、症状が安定しているとき、あるいは患者さんやご家族が退院を希望している場合は退院の支援をいたします。また、穏やかな最期を迎える場所でもあります。

医師や看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー、退院調整看護師など様々な職種が協力しあい、患者さんやご家族のケアを行っていきます。

緩和ケア科の設立

2016年4月より泌尿器科部長の村井哲夫医師が、緩和ケア科の専従医となり、「緩和ケア科」が設立されます。

り、自宅での生活に不安を感じたりしたときには、緩和ケア病棟に優先的に再入院することができます。住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、近隣の医療機関や福祉施設と連携して行きますので、地域のベッドとしてご利用いただけたいと思います。

その人らしい生き方をスタッフ一同支援いたします。よろしくお願い致します。

緩和ケア病棟の特色

病床数は25床です。(4床部屋3室、個室13室) 広い食堂やラウンジなどご家族や面会の方とくつろげるスペースがあります。浴室は一般の浴室と寝たまま入ることができる機械浴室の2種類があります。医療機器の音などはなく、静かな環境です。ベッドのまま屋上に出ることもできます。面会は24時間可能です。ケージに入るならベッドも一緒に面会できます。



ラウンジ



ダイニングスペース



2015年12月15日①
クリスマス会が開催されました。





第6回 キッズセミナーを開催しました。



10月17日(土) 快晴のこの日、『第6回キッズセミナー』を開催しました。小学生を対象とした公開公募の後、先着順で決まった元気な45名が集まり、医師・救命救急・看護師・臨床検査技師・診療放射線技師の仕事の体験が和やかな雰囲気の中始まりました。

開会式



医師編 手術道具を使ってみよう!



本物の手術道具を使ったシュミレーションに子どもたちは目を輝かせていました。

救命救急編 救命救急をしてみよう!



救急部の吉田先生による人命救助についてのレクチャーと、心臓マッサージやAEDの使い方を体験。心臓マッサージは意外と力が必要です。

臨床検査技師編 超音波で心臓を見てみよう!



職員が患者役となり、心エコーを使って心臓の動きと血液の流れが見えました。

診療放射線技師編 身近なものをレントゲンで見よう!



X線透視装置を使って箱の中に身近なものを入れて模擬検査をしました。



修了証書

看護師編 いろいろ体験してみよう!



車いす体験

聴診器の体験

赤ちゃんのお世話体験

終了後のアンケート

- ・病院の中にはいろいろな仕事があることが分かった。
- ・最初はドキドキしたけど楽しかった。
- ・色々なことが学べた。
- ・将来お医者さんが看護師さんになりたい。

この医療体験が、将来の夢へとつながることを願っています。



国際親善総合病院の 年男 & 年女 2016 特集



外来B看護師 中丸 智恵



外科医長 三橋 宏章



外来A看護師 加藤 依里子



4C病棟看護師 大本 智子

新年に 申年たちが 物申す



リハビリテーション科
理学療法士 柴本 洸

掲 示 板

子定表	健康懇話会	会場・国際親善総合病院 2階講堂		
		開催日時	テーマ	講師
		平成28年2月18日(木) 15:00~	鼻の病気「アレルギー性鼻炎」 ～慢性副鼻腔炎を中心に～	耳鼻咽喉科医長 井田 裕太郎
		平成28年3月11日(金) 15:00~	泌尿器科悪性疾患とその治療	泌尿器科医長 村岡 研太郎
平成28年4月8日(金) 15:00~	変形性脊椎症 原因と治療	整形外科医長 三宅 敦		

子定表	院外健康教室	開催日時	会場	テーマ	講師
		平成28年1月19日(火) 10:00~	横浜市泉寿荘	脳卒中について ～ならないため、なった時～	副院長 脳神経外科部長 飯田 秀夫
		平成28年5月13日(金) 10:00~	横浜市中川地区センター	詰まる、裂ける、膨れる ～動脈と静脈の病気～	副院長 循環器内科部長 清水 誠

手作りパン販売

場所 / 1階小児科外来前 時間 / 11:00~ 売切れ次第終了

社会福祉法人 関く会 共働舎

毎月 第1木曜日 横浜市泉区中田西1-11-2 TEL: 045-802-9955



1/7
(木)

2/4
(木)

3/3
(木)

特定非営利活動法人 わいわいクラブ YOY

毎月 第3木曜日 横浜市泉区岡津町2147-4 TEL: 045-811-8989



1/21
(木)

2/18
(木)

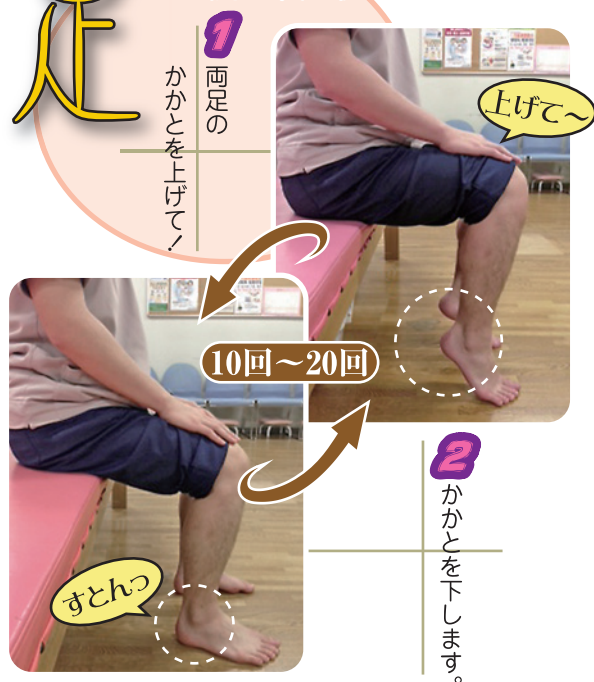
3/17
(木)

座って1分体操

肩のリラクゼーション



足の循環改善運動



病院のできごと 10月~12月



10月16日(金) 横浜市中川地区センターにて

第13回 しんぜん院外健康教室



整形外科部長 山下裕医師による「腰部脊柱管狭窄症 一歩くと痛む「間歌跛行」が現れる-」についての講演会を開催いたしました。講演終了後は、様々なご意見をいただき、お足元の悪い中ではありましたが125名の方にご参加していただきました。今後も患者さんのご意見を取り入れて、しんぜん院外健康教室をより有意義な講演会となるよう努力していきます。

11月27日(金) 初！新棟開設後

防災訓練実施

新館棟開設後、初めての防災訓練を実施しました。今回は新棟4階から出火した想定で行い、泉消防署指導のもと、初動対応の確認及び消防通報を行い、被害状況報告や災害時に備えて職員一同で取り組みました。全ての状況報告終了後、消火ホースにて消火訓練も実施しました。患者さんに安心していただける環境を作るため、今後も防災対策をおこたらないように努めてまいります。



12月10日(木) 地域医療連携の取り組み

泉区歯科医師会合同勉強会



東京歯科大学市川総合病院の先生方を講師としてお招きして当院職員、泉区歯科医師会に所属する地域開業医の先生方、総勢72名の参加で周術期における患者さんの口腔ケアをテーマとした勉強会を行いました。今後も周術期の合併症を防ぐために病院と地域の医療機関とが一体になって患者さんのケアに役立てる活動を続けてまいります。

12月24日(木) サンタと愉快的仲間たち！

クリスマスイベント

クリスマスイブに安藤病院院長がサンタクロースに扮し、入院患者さんへクリスマスカードをプレゼントしていきました。病室もにぎわい患者さんもたくさん笑顔になれました。



日本医療機能評価機構



ECO 活動推進



敷地内全面禁煙

